そ-9

源註拾遺

三

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

そ
7
9

源注拾遺第四

全部

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9

ガラス使用

源注拾遺巻第四

明石
澪標
蓬生
関屋
繪合
松風
薄雲
槿
未通女

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9

ガラス使用

一

一

一

一いとくちおしくこととぼるそうおもひあり

○今案和名鈔ニ文字集略ニ霈大雨也音沛日本私記云大雨（和名比左女）雨氷（同上）今案俗云比布（留）しいふるといふ也氷俗也大雨のふるくて物とおそろしきこゑありけるをいふ又俗ニ雷の降とかいふ突電なり炎のあるやうにそこるるまで縁てかりそめにもそこるるやうにそこるるや大雨を訓ありとかいふもこれよりおこれしいふ歟されど上古にいふ俗ニいふのおやうなれるり大雨を降るる大雨とうるる片ひふるとらるを火降とかいふそこにいまそこの火をくしとそこるるを改るるや

一

一雨のあまりに

一ゆきもしらぬとくるをしへつるを

○今梅　日本紀ニ韓婦（カラメラ）用韓語（テカラナスツリ）言云ニ欽明紀ニ

一をりおそるる涙あるまきを

○今案傳波をそうともいふ浪物ふるへしをそうともいふよ

○今案古今亮の長哥よ　をみそめおそれとぞおもふ

六帖　まみそめおそれとぞおもふ

同　さそこにおもふ事なれば

一雨のあまりに　○今案衰（シメル）神代下

一ゆきもしらぬとくるをしへつるを

○今梅　日本紀ニ韓婦用韓語言云ニ欽明紀ニ

一をりおそるる涙あるまきを

○今案傳波をそうともいふ浪物ふるへしをそうともいふよ

これも下の方の七ヨ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

一 あいとゝゐるあそらも北海のあそらも
　　北
　　仙台外あそとうそ海のうみあそ
　　細
　　ゐくハ水の泡なるくゝ仙そくのつゆ
　　ハくゐゐるのゝゝ
　　時
　　あそところハ海のあのやうに浅
一注　ゝゝの干よりゝ月のあそれ
○今ぶ生形在干よりよくゐそんるゝゝ彩古文ゝ雑上ゝハ影
ゝらゝまて勤ゐれとゐ集ゝハ十五夜月のゐそあそ
ゐ井にとき陸路楊うそゐゐ付都のゐゝゝ月ゝそゝ
ここゝしゑれまゝゐのようにゐゐくゝしゝ
物ゐゐるゝゐゐるそとゐりわそ
そくゝ　ゐそゐゐ集て
あそとゝゐ道ゝのを春ハ水のそゐゐ
ハ物ゝハゐそとゝゐ道ゝとゝゐゝ
わそゝのを別ハあそて乃ゐ
をゐゐゐハかゝゐまゝそ
もそ。ゐゐゐゐゐゐゐゐ
に月ゝ泡のハゐゝ上ゐハゐそゐ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

とゝほのうみなれのよるよこしまのあそおふる雨のと
いめんや杉位ゑうてわうをりめ
てうれをうりて今みやこをもりや
一入道ひそのほ師まなりて
○今集ゑ雨集ひそのほうし
ろのほそうみをとうへつゝひきわりけふ人をの
一ひるみうしろきるゑたのうまて
細まそうきみまてたく小路ろるゑ
○此ろ同おしまてなるものるといふ
一位吉の神をねのこゝりめなりて此
布衣
知あり所此れうれるあく住吉明神法の為の祝をゝ
て此なれんをゑ和哥のかなりとせんとのほとうる海江
の浦くありのあくまて海江とるつけるのかるれ明石
八まく住吉とよをゑ
一帝たゝの元うるうるまさく
細うるまの口物出ゑ花鳥ふるゝと仕方
○今集うるうるまうゝ哥ゑうゝ
万葉ふくとゝとるまとよりて
当八外よあるゝ八雨ふあるて

今集和哥ゑ八播磨國明石郡住吉
又同郡と萬江

一むかしのことなどもおもひ出でられて。

○今朝梅の花を見て

わが宿の梅さきぬるをとゝもに

一ひとりみて

孟一条院中納言

一ふるさとの

こひしくもあるかな人のいひてこしことの葉

○今朝まで我人ともに此の花を

一ひとりと人さらにひとりごと

一おもひもよらぬこと

細殿のもとにいまゝうらうへ参りたるに

一秋の夜のつゆよりけにおくものは

○今朝は此の歌かくて百首ばかりこと歌又主無の歌の外、夫木抄の名高の歌ばかりを

一秋の夜のつゆよりけにおくものは

○

万葉二

まそかゞみ

日七

そくわりてやのこゝろもはるかなる

日十一

家にありてわれをおくらむ

今朝の朝の

これは汗海といふ古今六帖第二の巻の名を

とゝめおきてつゆのあだなるよのことを

一かぜふけばおきどころなきはちすばの

うへのやどりやまがへるらん

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

ガラス使用

一 おりしもをひろう

○今按万葉

　白栲の袖とりかはしいもやしぬらむ

一 ささしつわもこ

○今案日本紀第五垂仁紀云田道間守至自常世国則
　貴物也非時香菓八竿八縵鳥　延喜式云橘子二十四籠云
　

一 ゆるるもにおいわらねこ川杉

○今按ゆるるをうるおうといふ
　なるべし世もおなじ

一 ふれゝゝこゝろ

○今按ふるをうるおうといふをたにまくて宿たる
　まのつゆにおいわらねこ川杉もおなじ意歟

一 いものこそこゝろ

○今按万葉巻十二天人そのゝ
　やまなるものをとりてまもるをまもれ
　こゝをきみをようてまもらばねもこん
　なるあそこのもとをやてあれ

もわうてやこゝをもて

一 わた海ともるのこうふれ
河 海底(ワタノソコ) 心(撰式) 万二 万十よ居こゝとをもる

○今あま海底をわたることゝ思てこうこれを見てまつこと思
又第七よはるのそこと思てこうこ

せるとゝ等に古撰式とゝよのことゝもゝ誤るゝまた第七巻を
底奥(ソコオキ)已舟とも海之底奥津白玉とゝつけるゝ古之
のこゝを加へるゝて知へ又第一の歌
とつけ第七よ海底奥(ワタノソコ)津白浪立田山
こゝよおもとつけるゝ第五
こゝるのそこなまつふ
ふるのそこ

汐(エ)なへうふれ於居戀之ある要浦
うゝ夏草思志萎而といるとゝ
日よあうてこゝをふくゝあゝていつる志いそくるゝあ
るゝ古ゝとかくゝ似名たうこうれ万葉ゝ男(カリ)似学ゝ
かうゝ楚辞よ怳々(妙壽院ノ新点ニ忽ゝ證トスルニ足ラス)をうゝあるとゝ思ゝ
とゝつ万葉の仰て万葉よりまつけれゝるこうれな
先へ

一 終つおゝ浦ゝ終まりのつやゝ
○今あ細所ゝうれるゝ五あの歌一十五ゝ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9
ガラス使用

和歌あつまりけるに風の音を聞
夢は風いとゝ吹きそふ音もまた
山ふかみそゝ吹くなりき
なけれのまとてもたえぬ息をつかる詞あれや歌の
つゝまねばもらぬ音をつけゝ歌のことくるをいふ欤
なりよく吹ものすなり又百をおもふ
大北山まり立ける和名けくなるその風と音ともちゝ
一わいまくへんれねものおもしまあわるこゝもゝてまくやまつゝ
せくさゝおう勢ゝり
○へう第和名云蟻蠓 上ニ結反下ニ孔反漢語抄云加豆平無之
日本紀私記云夫久太
小虫乱飛也礒則天風春則天雨日本紀第十二允恭紀云初皇后
忍坂大中姫 隨母在家將遊苑中時鼷雞 ツケノ 國造從傍徑行之乘馬而過 ホトリノ テ 籬
謂皇后嘲之曰能作圍 カ 干汝者也 ナヒト 皇后則採一根蘭与於乘馬者 汝ニ云那ニ云異提
戸毋ニ云親自 馬 廳乞ニ云摩 因以問曰何用求 ミヒカ
蘭耶乘馬者對曰行山捜蟻 ハラハシニンテキ 蟻ニ云蟻 今思ふニ此り紀の自注の侭
愚那岐
名ましおくるまいくを渡りきを法下されつくるとい小蟻乱飛也
乃ち仗よりいふくもてそこよりもとれもさもおもれをいへるや
俗うまき詞なり語物変えへし

一おついさまつる

○今案日本紀ニ篤癘（アツエヒト）日篤疾以ト江ト八五音通ハレおつえ
のふるし病ヲいふなり

一人のやうさく

○今ハあかた

我ものうさくうきせ申したなきつくのあるさくうるしん

一内大臣よりたまわる

細方右ハ大臣國ありきせ内大臣ハ令外の官として官位令ニ載ラ（タヒシリテ）ハエンヒロメス
なき大縁冠の時ハ内大臣をた右のあたの上にまるなり

○今按日本紀第十五孝徳紀云天豊財重日足姫天皇四年六月庚戌ニ　申是輕皇子不得固辞并壇即祚ラニ

以阿倍内麻呂臣為左大臣（ヘト）鴨我倉山田石川麻呂臣為右大臣
以大錦冠授（サツケ）中臣鎌子連為内臣（ヘトヒト）増封若干戸ラニ
中臣鎌子連懐至忠之誠攄（ノヘ）宰臣之勢（ニ）處官司之上（カサ〳〵）故進退廢置計従（ニ）事立（フト）ラニ
辛亥以金策（フミタ）賜阿倍倉梯麻呂大臣（ト）与（ニ）鴨我山田石川麻呂大臣同
二十七天智紀云八年冬十月丙午朔乙卯天皇幸藤原内大臣家親問所患（ヤマヒヲ）ラニ
庚申天皇遣東宮（ヒツキノミヤ）大皇命於藤原内大臣家授大織冠（ト）与大臣

佐仍賜姓曽藤原氏自此以後通曰藤
薨ニ　甲子天皇幸藤原内大臣家命大錦上藤我
赤兄臣奉宣恩詔仍賜金香爐一
ふたつ　詔曰公初仕ふる時正ふたつ
百支ヒよる居て忠正のなく進退を
皇七年四月立日蒲生野ニ猟ニ
ふたつ　内大臣藤原大臣幸ス藤原内大臣
を娉ス内大臣とある時ニ内大臣ときく
加へくる時ニ左右おたのよう内大臣を
通曰大臣とある内大臣なれ拝左右
ふたつ　内大臣と
一　よもつふんことば
○倉物　資　日本紀　用
一　うらうつひもやれを
○今按　乳つけをうつけるる
一　山もれてるあいのことてくるる
○桜胡孫
山もれ入ものみをとおそれ

一 まちうけのかうの花 ○ 又 桜

うれをねこつまん

一 うれさを苦いてたつこころこよ

一 ㄆるのえうして

ㄆ 用あり

○ 今案 要のつまるへ 仍考ㇾ要ハ

一 くたれうるうちくろみ柱

○ 又あふ築墻をついち又のついうまで

きるハいしちかきもきるハかきて

ㇾ柱とかきるくし土ときくかくし

木作しかるもの○へ木作るをついちらとらへ

一 ねを人をとつまるの心あるものの

○ 今案 既切 日本紀 頓絶 上同

一 まるれとふをこうおくく

○ 今按心鈍 万十二

一 かくあり

仍唐事

○今案伊勢家集にかくもあり
やへとうつろふものもものもとしわるるにあまとみてよ
うつろふ柳上

一かくやひの物歟
○今按竹丸物語のごとくへ

一こまくの子ども(二行ワリ)
何弊　○今按弊のごとくにて日本紀と同さ
おほつかな　弄のごとく日本紀と同さ
ものよりものとくおくて弄ふをもてあそぶ
とも同し

一いまのよ人のするごとくにてまゐる人
○今案結髪日紀とくもれさるしてほしおなし
おなじく洞そかるくあるれいまやうにすくふ
まゐるいさささけわけと等は
すくふるそかとうちのやうにみ等或
日紀ならむ
せいにまとうこらのをまた伝
いのらむるよまとそんくわ

一 ひとまろ
細 いとこそ恥ずかしけれ
口 人丸 梅咲きぬ 見よ 梅よ
むしの声 さまざまにあるも
一 ほとときす わこそ
古人教一回新叙事 定家
忘もり或又堂とやる如
細 章愛実法る人のなり

一 梅ゐれ 古の事こそ
口 人丸 梅咲きぬ 見よ 梅よ
一 おほさのおそこうくさすれ
てゆくふるのくこいて
えっくてゐれい
口 今集 雪ふる 春梅
春外おおる梅を吟風
此ふこの心をゆくよれ
一 神の多ふる神の橋
お酒

○へう桜顔叔子か故事をふまへて叶はす更に見へらるにも
うけひかぬ親の物語の為にもさる塔或は堂をその子不
孝にてこれらふみかへるよしかゝる物あるによりてそれをかし合
せれは文常信宗の古る世のさへ塔なとを残して末摘花の
君にも見へるを孝行の心なれとあはれにも見ゆるなり　細流に
畢竟実は香る人のなきとあるは如何　物陰とおもはるれ
はれなりといふをていはるて末摘花の心なきさへ叶ふへし堂こ
そのしる人なかりけるをいふはそのさまうは叶ひたまふれはさ
らくてこれをあはれなりとはもてなしけり塔の仮名はあまりや
人うはいはうとあれは堂其堂構といふとあり

一

ここはまほうかくれまかり

○へう室花ちる里もかうつこよなうわ不ちるとよりて末摘花の
方此よゝのねすなわちかまたれてかくるとや

一

ちかしかれはとまて

○へう桜

一むらさきすこし——いとあはれなる
（注）一説いとあはれなるをしるしとす
かゝるわが心のあるにこそいとあはれなるへいつゝうゝ
○今按この一説ぞよき風流なるものかいとあはれなるをとよきつけいるゝにこそ
よきつけいるゝにこそ切にきこえんをといふをとも也さるをあはれなるをとよきつけいるゝにこそ
いふの意と自説を遠也とわきまへやこゝろえそこなへるものにこそ
といふまでをはぶきてそこをとりて校合がほにかゝれたるこそ
こゝろえぬものからうるさくすべてかゝるたぐひ
みなかくのごとし
さしこと〳〵しくあらそひいふこと
白雉と出るむつかしくかゝる
さしこと〳〵しくあらそひいふこと
白雉と出るむつかしくかゝる

繪合

一さしこと〳〵しくあらそひ
細目まで也只梅枝

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

お
綬の字をこゝろえてよめり組をいへるなれ　又云花のかたちと
みえたり私曰説あれども組と見て正とすへし
○万葉和名抄第十四容飾具云唐韻云梳音疏一訓介都留 細櫛也
枇 毘志反和名保曽岐久之 百刺櫛 佐之久之 同巻服玩具云礼記注云綬音受和名久美
所以貫珮[下]玉相受承[上]也又用組字音祖 此字何れの心にてもよみ
かしこきところなどいひてかくとはいふ事説あまたあれ 撰集抄雑上に
也へまりける人のもとへわかなを結ひつけたるに今はつゝむとて
よしのよ
浅からぬ葉もたえすこゝろをこゝろむものの神よりも見えそめけるは
此ことはのこゝろやさしくきはめて結ひて入てといふ事をかけたるは本歌ハ二
この句そのわかなをいはれし紫をそへて表こなるをもとかくやうにせむ
つゝむを縮紫とよひてそれをわかなに入たるハ二三ハその紫にそへてよみ
て下句中のやさしといはれ 宇治花物語にもそこ一よのひて高ね
いれてつかはすところ梅の枝かゝるをとりかはし草花の花の上に挿れ
似り枝をさしいれたるところをといふにやとおほしく かりそめにをいれ
やよはれたるなり 今ここの心はあるへきやうにもてなされたるにあはれなるを
もちのをきよりて又此下にいひとりてえんにせさせるもんのことにあるまじきハ
そのゆゑなるといとゆかしきといふも此の相ともんのいひをさしゐる
ゐかりそのおほきころもなされしおもしろきといふまえたるはすそのかゝりなふハ
おもしきとこゝろにかくてありやうへ十种の花ハ能宣の方ハわかなを結ひて

入れて見れハ二つある箱さしいはれしことなのゆへにいふなり

一 こハかりうしろめたき事

細 はかなきやさしくもや

孟 時 異紀

○今按 日本紀にこそあめと申侍る 古今雑二 門おとく

わくとて帰りける人のかへまつりける 和泉式部

なりとて明ぬやハおもひ秋の夜ハまそうしまぬのとえかねつれ

舟よりあかハこれ初れ物しい給へんとハかりなると思ひて御むりそ

これは同しつるまて

一 わかりそかんらすし二いひえかりて世ハいはれてかるしけれ

○此つてハ帰りに都と思へり物語き思ひつゝ

あひこともられさするにかしくハえりて深みなけきさなりける

いふりてこ同し

一 竹取の内ハむかしよりあるものにて神代のことも今こそ思ひき

○神代のこととハ世あまの神世のこともおもひ出らかとらへ

をもさ帰て用ゐるなへし 続後撰 神上 よみ人しらす

竹取の内ハ花の色しをも出ちるへきのとやハ世にふりぬらん

くれし 此歌ハ竹取の翁の歌とて人のいひつたへたる 続後撰 内歌

一 たゞなほかずひとつあるはてに

細 左方一番の勝とや今一あるは須磨の絵いでまゐり

○今梅ゑだをさし紀行
[illegible]
[illegible]
のまねいふことにすることをえらぶ
[illegible]

一
[illegible]

○今梅ことをれおのおのをそ
[illegible]
[illegible]

一
[illegible]
[illegible]

○今梅の由紀と良家ことのさそうおしてこと
[illegible]
紳をさましとくよみるとうる家
梅殿あり人のこのことをうしろ
[illegible]

一
[illegible]

○今梅晩跡とは
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一

○今朝東坂も尾をくもらしてすゝめるものも物をいふといふ時節
ゆゑ近つはいうてゐるまゝ抽んでるといふやうに手近な団もちを付
なる酒肴をすゝめんといふのを辞むくとはいつゝ時花よ脇立
よいしなしてさらつゝといふをいふのぢやありといふても遠ふと
しるまいりまする

一

おゝ〳〵よふきやつた〳〵いよ〳〵よふきやつた

○今朝梅花を賀ると

酒呑

老ぬれば酒しまことを忘れ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

一 又ハ元もつくりかとよまるゝ
○ 今按 よろしき歟 上のつゝしみ
一 天ようの陰陽人
○ 今按 御局と天上 欲退時の久今ゐる都の人ハ天人のやうに
ゐやとなる世を見へ 但今
ハつゝしみ 此答あるとや 先
三途に物るといひつるの天人の上の事法して故へ上る人と
明石よう物る人とこゝろよりおの世ひのまもをいそ
むとてちよをとゝろく遠ゝわるんけの世ひるそゝへ
てとゝいふやそや

一 いくつの行ふの秋をゝつゝ
○ 今按
五月ばかりまでのわれもやそうの世なりけり

一 くこゝをいさゝるる人の山口いし
川と云
人よりも号のわれも見るれも山口ハ
○ 今按 此川なほもうおはつるし
秋 高井 まの山井山只
ゐすもしいつるかりへ——

一 つくろひもなほ此ひこよまも

○今物語の拾集雑一云 東松院の渡守の子ふと乳を
そそりみたる
世の中はてもうれしき酒なりとて乳酒のまる
乳そもうれしき酒なりとて乳酒のまる

一 山井は井にもちゐるのことも

○今物語 日記に藻水をいさら水とよめりみ六帖も
和門のいさらを川のまま水のまにおかのまちひとりを片
藻は和名よいろことよみて雨のなにいうことまりてもいりま
水も和れいま水にもちゐ水にいわてこととした
やまてを思ふとつけり和れいさらみも藻井ともとは水
のもとおれる事を後りてそ悟り好とそのをしめりを

一 かくらいもの事

○今物本朝文粋第十三に慶滋保胤のさかしら勧学の院佛
名廻文一巻わりかくらは諸人よ山まりて善根をとも
にするなり

一 里遠しやとの事へ

○里遠しいたう更けぬに恋ひ来ませ山の端近く月の傾く
里をこう おとろうまでこゝにみてこそ
今様世人の物よりもうもうもうもう
人なだ高のうや同まてそ似くめし
木下よをろろろ日さいろや

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

○今梅 遊て居云 擧頭(サシアテ)明中(ソリ)に愈見十娘半面 小河多葉(ハタカリシスルラ)
おもてけるのれねてるしおることをこうそ
一 やへ山吹
○今梅 やえ吹
かしその内のこうにいのこ
一 かくりおくまとるのそうそ
○今梅 あまの竹取 第二
そうるうにたとうちやうにそうくるよやるてよ寺にやうて

落葉 雪云
一 りうかいこてもかくてを用一
○今梅 梅九
帯にそてかて用
一 又をそるらてうろやとそてなれ
○今梅 一万葉十一
おうらよ共母うくをるふ
一 わうそき
○今梅 衣擬式の也言
一 ひうちのそうそうてせそい

てみしまゐつる

○今按万葉廿十六竹取翁歌ニ
そらにいるまよわるたもとこのみくハゆふるをそ
うら枯のおるよろわらにそたにうらちこのをゝ
ハつゝてすうゝふるてあるとみるいくうゝ
うのつゝ此白うおうけるもんをよ
もこれおろうあなるうろうつゝ
きおろくてゝもたおけうもしゆふるをいとうつゝ

一

○今按 ウラヽカ 運ニ 万葉点

一

○今按 ヨナヤリテコロモヒモニ 特ニ衣帯不可排離 ヌシ

○今按神代紀下云則拳特衣帯不可排離

一

おもろうゝん

或云 按人ゝしく 按人ハ死人ヲイフコトウツクヲ死人ヲハ

○今按按人ハ按ハ地名雄俊人ヲイフコトヲ和名抄云尾張國
愛智郡作良郷 サクラ 此ノ集ノ下ニ三ノ言市里人

按田ハ按人ヨ領ルヲイフヨシ

按田ハ按人ヨ領ルヲイフヨシ

作良ノ海ヲヨソヒテ前ヨ領アリクソコニ田アルヲ領ル田トヨ

重ノ集

名ハ田ヲ領テ作ルヲ領ルヲイフヨシ

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

一うつくしきものゝ形ちをつゞけものゝ
○今ねくとふと旧詞にて面をいふ
よきも 言ぬ事をもくちとよ
のかうくしくもしくもかへをよりぬ
一たゝうつゝぬおほつかさまし
○此間本ノマヽ

一まてもおくまなくもあるかな
○今按ずるに人こゝにおとらぬかし
まゝりぬとふまてうつゝをよ
おもひ出ぬ人のひとをわすれ
叩る風ひおうんやいかゝ
これ歌の入道をしるものゝ
姓はさまをかゝきあり
況るものゝとい侍るを

一夏のやうにうきてう
○今按世の中の事のうつろひ行
○今按世のものゝよう立
一そのゝちあて世の中代をう
○今按 仏書にまよ
門をあけて世をまて神のうへやあらん哉

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

一 柳の枝をさし置てかへりたるを
○今案ずるに初春の頃よりかれたる柳の枝
をもとめて折とて正月よりかざりたる
ものなるべし
補有歟 ○長保六年辛巳
五年あり ○寛仁二年戊午
来月 ○寛仁元年より改元ありて
れ ○物語よりさきざきの
一 あさりくらね
何と 不祥 ○今案ずるに不祥の字
一 いうてやのことしてくるとも
○今按ずるに日本紀などにかれと
なし
○今按ずるに如思ふともつまをとるものの
のたぐひなるべし
一 ふうきもの
仰 ○今案ずるに世の中をふきまどはすやう
○今案ずるに古抜字と注(ウスカシ)雨冠五字しかるべき歟
ようにや初のあ ○今按ずるに法雨と入るにや
とりをこなひとりけるみくら

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

一 こらくくおほくのものもいるなり

○今按 考記よみるきこみだざめとうこうくに人
もかくやうにみるのいにそうさうそう
わとらつう

一 かこともありとるるとこへとおかて
○今按叶てこくいまこよおそうくんあるまてみうのもの
おへくこいつおそとおへ

一 かこさしよる年月らうかこへられ
の神剛（かこさと）日 神翁 剛雅 日
○今按神さしいう名あよい神俗よもまうち左備あと似るよ
神て宮あり剛雅いうやらいやかとよみく別事也 神剛事
ハ不可用 百をあて

一 ○今按叶宮下伊勢 意俗の汲叶をよ事院を宿むるり
今ハ神社いさめよかこもそんとするとうきつけるとい 勅院なるよ分その汲なり
いまあハ神社いさもも造営なくなりより
人しおそおのゆきを
會筑波顧看雁哥會日作哥よ九

他妻尓吾毛交牟吾妻尓他毛言問此山乎牛掃神之従来
不禁行事叙云々　日本紀にハ剣の字をいさむとよめり

一 そのかみつくハにハおそろしきなかの風よくふきたれ

細 東南の風をいふ也

○今案級長戸ハ風神の名科戸風とも書これによるへし　細流の
説あやまりなり

一 みそきをと神ハ

細 一説にハみそきをと神ハうけひきとゝく人をまもるをつゝしみとて

○今案此説ハ宜く家の縁なり

一 かゝるをりともあはれハこそ

○今案類唱なり

一 あはやきされの

細 あまのたくもあはやきされたれけハうらくのまちあまるらん

○今按此ある所ハあらしを尓かと

すみよしの神はあやまちやあらんれやとてはつかしおれいはすときなれはと

住吉の神のまもりやあらぬかたれかなハぬことを思ひそてのむらん

すみよしの御神の擁護ある人ハこらしなけれハ忘つゝも

一 みしるしてとくしるしと

○今案一西の門ハ離人も出入せまて死人の出入のかあまりにけり

れさる事にこれよるにのあやまり

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』 請求記号 そ-9

ガラス使用

一 みるとなりさしけるけしきひうちそふたけてきて
○今案うすきたいかのまいつれて春よや冬のかくまてうすつく
やうにいてあるへし
一 ここよせのわたる 言葉抄 定家
○今案下の句をあはせて見るに夢のことゝせのあはれなる
ねれ源氏の御をも見給ふにもかたかるはあさましきは心あさ
まさなんのあはれなる心地はゆるしの事ところ其上物は
感ていとあるみえし心ちるなるにもあれとこゝかしるかすへの思
ひてありすゝられたるにつきてかはたもあまたるを思ふき
りうしくみの上のあはれなりこゝろもを見給はゝうきちかり
一 けはしきをふつまよて
○今案和名抄云弦楫方云彈鼓〈鏁天二音〉之多都岐 舌不正也
りしうかれにるを見しかたあまいかさよ
細 あをうしとひしてほとよ今ゝまふのうへさんなるけきみ
一 人つてあるその酒いさんを
○今案然有はよりある為にて
一 いつまてつくかりおもてふことをさらにへつくなりて思よかうん
○今案惜撰 忘 教忠
一 こころつくとのをましけるこゝをを
可 こひかれはつゐみえきるれは思ふたくかくなてかつらふ

○ 此ことわりなり

一 いとゝく世のつねに

○ 今案此(かく)ものゝ注をいふ

こゝろにくゝおもふことゝまるあたを

一 ゆゝくいさゝかなるしるしくらやう

○ 今案古今集古今六帖をはじめ

よろづの歌書にも萩を萩の下葉

紅葉をえらびてかゝれり

一 萩と竹とのけぢめかうたがふ

細(こまか)なるものゝ名也

萩と竹とまぎれつゝ指(さし)分がたき

○ 今按に古のいふ小竹(しの)つゝ

つきまれ細流の流れ込るをいふ

葉ふかゝらず葉わゝく雨をおもたく

なる故竹にはあらぬをもしらずして

いつまれとうるさゝをまぎらして竹を

まばらとうるさゝをまぎらして竹を

まばらとうるさゝをまぎらして竹を

一 おとらつまれ小雨さゝやく

○ 今案按に

玉川をいふよりおもふらん

未通女

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9　　ガラス使用

一
○今昔源氏天皇の皇子の中より六位より列して
大臣のくらゐにいたりつかさくらゐなどゝ
一
ありふるみよもありまた
○今案こゝをもて
ひとあとおもふことをいふべきにあらず
一
をもてとゝまれるくさ〴〵
細事よりふる人をいふや
○今案をもてつゝをさゝふるやうにてすくふつるなどやう
をもてたゝへとゝまつるくさ〴〵ふる人といふなり
一
ものゝうつくし
○今案こゝは特殊の語もよさゝうなることをいふこと
一
けうらしきをいふ
也 俗粧なり 細けさうするや
○今案俗粧は女のかざりつくろふよりいふ
うるれは別よ考よ一
一
仏のうらをみえたてまつり
○今案 物遠集五一
今これわれのうらをもてまつり人今
新勅撰五ノ五ノ 中納言定頼
仏のうらをみえたてまつれる

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

わらはのかみをとこせむハいふつきれ数やまさらん

一 さためおきてしことやといひしよりうらみたまひけるハ

細 秀深兵部卿の宮さりしとをもおもハれしさま思ひいつらん

○今案此意ハかよふやうにきこゆ

一 いときくしきおよすけたる人

花 觿のやうなるものとはかくしわたるもの角にてつくる錐やうし

○今案和名鈔刻鏤具云唐韻云觿 許規反和名玖之利 角錐童子佩觿

説文云角鋭端可以解結者也

一 いろくの花紅葉のさかりのいつくよりもなか中の春そ

○今案いろくとハ夕霧紅葉洞みなり秋ハ神といふをうけ

こゝろや中のそれハ沈採として

つくりやう中にありてこまかにきはやかにしきあやハおもね

おもむきさまは

このみ中にもさかしうかゝりさかりわかれさくへにつゝる

うつりかはりて

年月をさかりて中ハおほゆともいつくかハ隔さらん

一 ものいとくて

○今案唐しいとこきやいとはむかしいと染め同しう底になるなれ

つかはしや

一 わかくなれとよみたりしや

一 青表紙よハこよの内ゟ姫と有の用ゟ〳〵

おゝ 近衛神名帳ニ曰豊若宮と有り

○ 今梅常をゟれてをもしろ〳〵

姫といふ内ゟ近衛よ行幸ニ注

神社のこと

一 けゝしう

○ 今栗今ゟ供ゟもたゞくしの

一 まゝがつよゟるんと

○ 今栗汝をゆゝとらゝのと

あるゟ姫ゟ事を敵ゟ世ゟといふ

一 さんちゝゝ

○ 今梅精令日記ニ曰

一 何ゟハ六位なと

○ 今事ゆゝ何ゟ〳〵上よ有ゟ

ゟまゟ元ゟ〳〵うとのまゟ

をゟてゟゟ事のゟりして

てのゟよを何ゟハゆゝて

一 ち夜のち卯ちのゝこゟ

○ 今事ち卯ゟれこゟ

ゟまゟまり

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9
ガラス使用

一 九重を京(きょう)へ(と)つ
細 洞中をかうこうるや

○ 今業(ごう)ふかくもりめ(ら)へて仏陀(ぶつだ)へあるくこれ只洞中に
世事をそつてかきも籠よもい出(で)ぬ事(こと)なるべし

一 なまこ(海鼠)にるものもすやきそん
寿 その席よりまきの人くなりしや
やう仏名(ぶつみょう)の詞(ことば)や

○ 今業(ごう)ふかくもりめ(ら)へて仏陀(ぶつだ)へあるくこれ只洞中に
世事をそつてかきも籠よもい出(で)ぬ事(こと)なるべし

一 一行(ぎょう)命(めい)かくて叶(かな)ふ(ひ)の世のまをとんなる
ひ(ひ)ふ(ひ)洞中(どうちゅう)も院方(いんがた)法氏(ほうし)なるへ(と)あくまでもるとふ(ひ)をは

一 梅(うめ)ころも

○ 今梅(うめ)ちよおりひつるとひ(ひ)ふ(ひ)
まきりてとらうれ梅(うめ)よのるを世(よ)
苦(く)世(よ)をうくさ(ざ)ま(ま)そや

一 のんもうこう(こう)
○ 今梅(うめ)(多ひ)(剛)今(こん)さも

一 沖(おき)とうみ(うみ)

○ 今梅蜂(はち)鈴(すず)の記(き)よやとうこ(ご)
こ(ご)のことも杜(と)こ(ご)ろ(ろ)をれい精進(しょうじん)此後魚(うお)を用(もち)るものゝくれ
杜若(かきつばた)の一 年斎(トシミ)節(せつ)斎(さい)(七千ニ)
土佐日記

一 中り状(じょう)のちやうま(ま)ことをそくへ

特別
そ
7
9

○今梅 白氏文集云

一えたにし名もさつきの山なとも

○今葉 うすもえ

おのかなその名をさつきの山まてさら人えさう松と松か枝

国立国会図書館　タイトル『源註拾遺』　請求記号 そ-9

ガラス使用

そ
7
9
特別

国立国会図書館　　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『源註拾遺』　請求記号　そ-9

ガラス使用